

拠点

拠点3 嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦

1. 事業概況(運営方針・目標の実施状況)

1) 拠点全体

今年度は新型コロナウイルス感染症への対策に追われた一年であった。現在もまだ継続中ではあるが、初めての事であり先の見えない状況でなかなか対策もすぐに講じることが出来ず、後手に回ることもしばしばであった。今回の一番大きな対策としてはのびろ、ひかりの両学園が帰省を中断したことである。特に家族との直接の交流が持てないことに対しては対策の取りようがなく、療育としての観点からは家族との交流が持てないことは大きな障壁になると思われるが、施設という状況下において、一人の感染者が全体に及ぼす影響は計り知れず、今回の対応に関してはやむを得ないと考えている。幸いにも現状では利用者、職員共に一人の感染者も出ずに年度末を迎えられたが、まだ感染の状況は継続しているため、引き続き対策をとりつつ、今の生活が少しでも利用者にとって過ごしやすい環境に整えていくことが課題である。前年度は離職者が増加してしまっていたが、今年度については減少している。人材育成などを通しての業務に対する理解を深める等の試みもあるが、この新型コロナウイルス感染症の状況による影響もあると考えられる。引き続きキャリアパス制度を活用した人材育成を通して、業務遂行の困難さをやりがいに転化していけるような取組をしていく必要がある。

施設整備として、敷地内に老朽化した建物が多くあり、今後活用するために整備をするのか、それとも撤去するのか検討する等の整備を行っていく必要がある。

2) 袖ヶ浦のびろ学園

年度内の新入園児は、7名（措置1名、契約6名）であった。家庭や学校と連携を取り、学校生活への適応や家庭帰宅の調整を個別に行い、学園だけではない本人の社会生活を維持する中での入所施設支援体制をとった。今年度は新型コロナウイルス感染症により今までの入所や短期入所のスタイルに変化が見られ学校などの休校や社会全体の活動の自粛により自閉症児にとっては生活リズムの崩れや見通しの立たない生活を余儀なくされストレスを抱えた生活を送ることになり子どもたちの状態の悪化や在宅勤務などから児童虐待のケースが増加した。そのような状況に対応できるよう未就学児童の短期入所を積極的に受け入れた。施設の専門性を求める入所と養護性の欠如によるサービスの利用と新たなニーズに対応するため、児童相談所との連携を密に図りながら支援を行った。一方退所児は高等部卒業生6名であった。移行先は、障害者支援施設1名のみで、ここでも感染症による成人施設への移行支援が滞ることとなり当園で入所施設やグループホームへの移行待機による短期入所利用が5名となった。昨年度、障害者支援施設の長期短期入所に移行したものの本人の状態悪化により利用の継続ができなくなり学園の短期入所を利用して次の移行先への待機待ちのための長期短期入所利用2名となった。千葉県内、東京都内では行動障害を有する児童の受け入れが難しく、比較的受け入れが容易な地方を選択せざるを得ない状況が続いている。入所児については引き続き、千葉県からの入所数が東京都からの入所数を上回る傾向にあった。入所支援に求められるニーズは、行動障害に対する支援が高く、重度傾向と共に、生活環境に配慮が必要な個別的な対応と個室化が求められた。

また、今年度の短期入所は3度の緊急事態宣言の発令により利用のニーズはあったが利用の自粛をお願いすることになり低い利用率になった。

3) 袖ヶ浦ひかりの学園・グループホーム春のひかり

2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策に追われる一年間であった。家庭への帰

省を中断するということが利用者の生活にとって一番大きな影響を与える変更であったが、利用者は当初想定していた状況より、かなり落ち着いてこの事態を受け入れてくれたように思う。それは一昨年のグループ変更や昨年の台風被害における変更など、イレギュラーな生活が継続してあったことが影響していると推測している。帰省することが出来ないということが利用者はもとより、父母にも大きな影響があった。今までこれだけの期間離れて暮らしたことが無く、不安を伝えてくる方も多く見られている。そこに対しては帰宅する予定であった週末には必ず連絡票を記入し、そこに日常の様子を写真に撮り一緒に送る等、家庭との連絡を欠かさずに行った。しかし、やはり実際に会うことが出来ない状況というのは利用者、父母の両者にとって不安であると感じた為、7月には一旦新型コロナウイルス感染症が少し収束したことを受け、面会を設けることが出来たが、その後は実施できていない。家庭が都内にある方が多く、かなりのリスクを伴うことが分かっている状況では実施することもはばかれた。早くこの新型コロナウイルス感染症への治療薬やワクチンが普及することを祈るばかりである。今後はインターネットなどを活用し、利用者の様子をもっと伝えられるように取り組みたいと考えている。また、利用者の高齢化は以前よりひかりの学園にとって最重要の取り組み課題であったが、今年度、残念なことに二人の利用者がお亡くなりになった。一人は通常の検診において病が見つかったが、すでに治療が難しい状態であり、ご家族と相談した上で今まで通りの学園での生活を続けた。その対応の中で問題点や課題もあったが、本人にとっての生活、または最後を看取っていくことを改めて考えさせられた。この事についての正解はないと思うが、利用者が安心して最後まで過ごすことが出来るように支えていくことを職員一人一人が考えさせられることになったと思われる。とても悲しい出来事であったが、支援者としてこの事を忘れずにおくことが必要であると感じている。

利用者の日中活動においては「ひかりの工房」として選択的作業体制を維持した。利用者にとって作業の場が自信を回復する機会となり、達成感や充実感を得られる場となっているのは確実である。加えて年齢に伴う老化現象を最小限にするためにも、散歩活動を必ず週に一度は参加するように日課に取り入れた。また、生活棟とプロムナードの間にあるスペースに人工芝を敷き、日常的に外気に触れられる場を造った。

また、例年親子合同で新年会をホテルにて行っていたが、今年度は学園内にて行うこととし、厨房と連携して利用者の好みの食事を提供することに加え、ケータリングを注文するなど通常の会食と遜色のないものを準備した。この閉塞感のある状況の中で、少しでも利用者にとって余暇の充実となるものを提供できたことは、利用者、職員の両者にとってこの状況を乗り切っていく大きな励みになったと感じている。

生活介護事業のみ利用している「きずなグループ」の運営も継続した。実際にきずなグループを利用する利用者の多くは他の事業所では受け入れられず、学園においてもある程度の配慮や、経験に基づく支援が必要である。その中でも外出は利用者や家族にとって期待の高い活動であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として学園内で行う行事に変更した。しかし、思考を凝らして今までとは違ったものを提供したことで、遜色なく楽しめる行事を行うことが出来ていた。

グループホームも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。今まで日常的に行ってきた外出に制限が設けられ、生活様式を変更することも出てきたが、個々にこの状況を理解し受け止めていた。

4) 地域生活支援センターたのしみ

袖ヶ浦市指定による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」及び、千葉県指定による「一般相談支援事業」の指定を受けて事業を行った。また、袖ヶ浦市から袖ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会が受託した市の障害者相談支援事業に相談員を派遣し、地域の障害児(者)への支援を行った。えがお袖ヶ浦(袖ヶ浦市相談支援事業)が拡充され、2021年1月18日に基幹相談支援センターが開所した。基幹相談支援センターは、袖ヶ浦市がNPO法人ぽびあに委託し、そこから再委託をされる形で相談支援事業所えにしが受託し、参画した。児童発達支援事業については、市の幼児相談や病院からの紹介、他市からの利用が増え、

事業所の存在がさらに認識されるようになった。袖ヶ浦市や木更津市の保育所などの巡回訪問を積極的に行い、発達が気になる幼児への体応の仕方等アドバイスを行った。また、就学前に適切なサポートが実施できるよう袖ヶ浦市の要請を受け年長児童を対象に言語聴覚士による言語の発達検査を行った。児童発達支援事業は緊急事態宣言が発令されても利用を受け入れていたことや利用児の増加に伴い、利用率が大幅に増えた

放課後等デイサービスは、楨の実特別支援学校・君津特別支援学校・市原特別支援学校・長浦小学校・昭和小学校・奈良輪小学校・蔵波小学校の児童が利用したが今年度は新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令され学校の休校や利用の自粛が続き利用率が大幅に減少した。

5) 袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園

袖ヶ浦市より指定管理を受諾し、一期目の5年間で終了した。二期目に関しては、保護者の要請や現状を袖ヶ浦市が受け止め、そのまま当法人にて運営することとなった。引き続き、利用者との関係性を深め、利用者自身が意欲をもって通所することが出来る場となるように努めてきたことが受け入れられ利用者が増加した。特に生活介護事業に於いては定員の12名を超える利用希望があり、袖ヶ浦市と協議し、条例を変更、次年度からは生活介護事業の定員を20名に増員することとなった。利用契約者はどちらの事業においても増加している。就労継続支援B型事業においては、30年ほどの前より継続して通所している利用者があることで、全体的な高齢化は継続しており、そのことによる生活環境の変化を余儀なくされるケースが出てきている。そのため、新規の利用者が増えてはいるが、総数としては変わらない状態が続いている。しかし、次年度においては高等部卒業後の移行先として1名の利用が決定している等、高等部卒業後の移行先として定着しつつある。

家庭の事情から短期入所利用のニーズも増えてきており、袖ヶ浦ひかりの学園の利用へと繋げた。袖ヶ浦ひかりの学園と連携して支援が出来るという安心感で、更なる新規の利用希望が増え、現在では毎日3名か4名程度の利用希望があるような状況である。希望者も控えており、今後はさらに短期入所の利用が拡大していく見込みである。

2. 年間行事等実施状況

※別紙1「年間行事等実施状況」参照

3. 職員体制

※別紙2「組織図」参照

4. 職員研修

1) 方針(再掲)

社会的な背景として福祉人材不足や人材の流動性が高まる中、当拠点でも新たに採用される職員が増え、勤続年数の短い職員の割合も増加傾向にあると思われる。

一方、実績のある法人として地域からの期待と信頼も厚く、質の高い支援の提供が求められており、これまで培ってきた知識・技術を維持、発展していくことが重要であると考えられる。

幅広い研修ニーズに応じて人材育成を行っていきけるよう、新しい職員向けの基礎的な研修、専門性を高める研修、スーパービジョン研修など、各階層別、目的別に合わせた研修の再構築が必要である。

今年度は、これまでの効果的と考える研修を実施するとともに、研修係を中心に研修の再構築にも力を入れて取り組んでいく。事

2) 事業所内研修

- ①受容的交流理論に基づく対人援助の知識や技術を高める
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、夏季療育合宿、冬季療育合宿は中止。
 - ・法人職員全体研修(3/13)への参加
- ②新人職員の育成
- ・チューター制度…新人職員に対し、キャリアパス制度による育成担当者がチューターとして1年間付き、新人の育成に取り組んだ。
 - ・新人職員向け研修…4月1日、昨年度の中途採用職員、新人職員、異動職員を対象に、事務説明、非常用電源・スプリンクラーの説明、マナー講習会、環境整備の説明等を行った。
 - ・新人研修…5月31日、昨年度の中途採用職員、新人職員を対象に研修を実施した。内容は、嬉泉の仕事について、研修について、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦を知る、嬉泉職員として大切な視点を考える、懇親。
- ③法人事業所間の交流研修への参加
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、県を跨いで職員移動は避けた方が良く、今年度は行っていない。
- ④心のケア(抱っこ法)研修
- 新人職員を対象に、合計5回の実施計画(7/21、9/1、11/10、1/12、3/2)を立てたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、後半の2回は中止とし、年3回実施した。
- ⑤拠点内全体研修の実施
- ・全体研修会…これまで複数回に分けて行っていた研修を、新たな試みとして、9月20日に1日にまとめて研修を行った。対象は、拠点内全職員。内容は、ケース研究発表会、アセスメントを考える研修、人権擁護研修、消防設備に関する研修。ケース研究発表会は、阿部秀雄先生にスーパーバイザーをお願いして実施した。
 - ・エピソード記述研究会…新型コロナウイルス感染予防の為、今年度の実施は見合わせた。
 - ・プール講習会…7月17日、事故防止、救助法獲得の為の研修として、昨年度行った研修を撮影したものを教材(DVD視聴)にして研修を行った。新人、異動職員を対象として、12名参加した。
- ⑥各職種に必要となる知識を高める
- 千葉県知的障害者福祉協会児童部会は、オンラインで意見交換や情報共有等を行った。障害者支援スタッフ部会については、新型コロナウイルス感染拡大防止で中止となった為、職員派遣は行っていない。

3) 外部研修

出張・研修名	主催	参加人数	日時	開催地
第43回てんかん基礎講座	生活サポート千葉	1名	8月20日21日	ベルサール汐留
強度行動障害支援者養成研修(基礎)	千葉県知的障害者福祉協会	1名	9月15日 10月1日	千葉文化センター ふる里学舎蔵波
強度行動障害支援者養成研修(基礎)	千葉県知的障害者福祉協会	2名	10月20日 11月4日	千葉教育会館 ふる里学舎蔵波
千葉県相談支援従事者初任者研修	千葉県健康福祉部	1名	8月27日	リモート
令和2年度衛生管理講習会	袖ヶ浦市食品衛生協会	1名	11月5日	袖ヶ浦市民会館大ホール

障害者支援施設部会・地域支援部会合同研修会 施設長会議・研修会	千葉県知的障害者福祉協会	1名	12月3日	千葉市文化センター
高次脳機能障害リハビリテーション講習会	千葉県身体障害者福祉事業団	1名	1月22日～ 1月28日	WEB研修
障害者虐待防止・権利擁護研修	千葉県健康福祉部	1名	1月22日	WEB研修
令和2年度サービス管理責任者等更新研修	千葉県健康福祉部	1名	2月25日・他	千葉県教育会館

5. 実習生等の受入状況

① 実習生の受入(総数：一名)

名	称	
越谷保育専門学校		辞退
淑徳大学短期大学部		辞退
大原学園		辞退
東京福祉大学		辞退
東京リゾート&スポーツ専門学校		辞退
東京都市大学		断り
聖徳大学		断り
千葉明德短期大学		断り
YMCA		断り
白梅学園大学		断り
東洋大学		断り
大妻女子大学		断り
十文字学園女子大学		断り
立正大学		断り
横浜こども専門学校		断り
東京家政大学		断り
目白大学		断り
日本児童教育専門学校		断り
武蔵野大学		断り
清和大学短期大学部		断り
千葉経済短期大学		断り

※2020年度はコロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言中に実習を予定していた学校は学校側から辞退の連絡がり、それ以降の学校については協議の結果お断りをさせていただいたため、実習生の受け入れはしていない。

② 知的障害者関係施設及び学校からの研修生(総数：1名)

名 称	人数(人)
しいの木特別支援学校	1

③ 見学者の受入(総数：22名)

名 称	人数
入所希望者	13
榎の実特別支援学校	1
てとて相談室	1
印西市役所	2
ピクシーフォレスト	2
きずな利用希望者	1
青葉会	2

3) 福利厚生

① 定期健康診断(年2回)

対 象：全職員(深夜勤に当たっていない者は年1回)

実 施：1回目 令和2年9月25日
2回目 令和3年2月3日(夜勤対象直接支援職員)

実施人数：1回目52名
2回目51名

場 所：学園内(ちば県民保健予防財団検診車)

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、胸部測定、ウロビリノーゲン測定、尿潜血測定、尿糖測定、尿蛋白測定、心電図、便潜血測定、肝機能測定、腎機能測定、脂質測定、炎症測定、貧血測定、糖尿病測定

備 考：生活習慣病予防検診の対象者は、1回をそれに含める。

② 生活習慣病予防検診(年1回)

対 象：35歳以上の職員

実 施：令和2年9月3日、4日、8日

実施人数：67名

場 所：学園内(ジェイコー千葉病院)

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、心電図、検便、検尿、血液検査〔貧血・生化学検査〕脂質、肝機能、胃部レントゲン、胸部レントゲン、身体測定(腹囲、BMI含む)、乳癌・子宮癌検査(希望者のみ)

備 考：日帰り人間ドックの対象者は、それに含める。

7. その他

施設整備

- ・袖ヶ浦ひかりの学園 エアコン設備設置工事(厨房)
総費用 2,900千円 (全て自己負担金)
- ・袖ヶ浦ひかりの学園 中庭人工芝設置工事
総費用 1,450千円 (全て自己負担金)

1. 10カ年のアクションプラン※網掛けは一部改訂および新規項目

- 1) 自閉症スペクトラムの多様なニーズへの対応
 - ①「はやて棟」の用途変更(ひかりの→のびろ) ※実施済み
 - ②のびろ大規模修繕 ※実施済み
 - ③のびろ支援員の研修(高機能、知的に軽度な発達障害への療育) ※継続中

- 2) 入所者の高齢化への対応
 - ④ひかりの本体(そだて)改修、増築 ※実施済み
 - ⑤ひかりの利用者グループ再編 ※実施済み
 - ⑥ひかりの支援員の研修(介護技術・メンタル・SV体制) ※継続中

- 3) 「切れ目のない」地域支援サービスの拡充
 - ⑦「児童発達支援センター」の整備(相談支援の併設) ※実施済み
 - ⑧のびろ利用定員の変更(50名→40名+短期併設10名) ※実施済み
 - ⑨ひかりの「地域支援棟」の整備 ※平成30年度実施→次年度へ継続
 - ⑩グループホームの移設及び増設
 - ⑪袖ヶ浦市福祉作業所の受託 ※実施済み
 - ⑫たのしみ中高生の放課後デイ実施 ※実施済み
 - ⑬袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新 ※実施済み
 - ⑭児童発達支援センターの機能拡充
 - ⑮地域生活支援センターたのしみの再編成
 - ⑯地域生活支援拠点の整備
 - ⑰ひかりの学園短期入所の定員拡大 ※実施済み
 - ⑱のびろ学園短期入所棟の整備

2. 自閉症スペクトラムの多様なニーズへの対応

- 1) ~~「はやて棟」の用途変更(ひかりの→のびろ) ※実施済み~~

- 2) ~~のびろ大規模修繕 ※実施済み~~

- 3) のびろ支援員の研修(高機能、知的に軽度な発達障害への療育) ※継続中
児童福祉法改正前は、第2種自閉症児施設として、重度の自閉症児(主に強度の行動障害を示す児童)を対象に支援してきた為、近年社会的なニーズとしても高まりつつある、知的に軽度な発達障害児に対する支援に苦慮している現状がある。また、本人の問題のみならず、家庭環境(成育歴)や保護者自身も知的・精神障害を抱えているケースもみられ、トータル的な支援の必要性に迫られている。
まずは、法人内の他事業所との交流研修や実習を通して、スーパービジョンを受ける中で支援技術の向上につなげる。また、外部の研修などにも積極的に参加をすすめ、幅広い視点を養っていきたい。

3. 入所者の高齢化への対応

- 4) ~~ひかりの本体(そだて)改修、増築~~ ※平成30年度実施→※実施済み
- 5) ~~ひかりの利用者グループ再編~~ ※実施済み
- 6) ひかりの支援員の研修(介護技術・メンタル・SV体制) ※継続中
高齢化に向けては、介護技術の研修や資格取得などはもちろんのこと、他の高齢施設職員の意見を聞き、研修や施設整備に繋げていく。
保護者や利用者自身が亡くなったり、それに向けて見守っていったりなどの、ひかりの職員が未だ経験していない事態に対する備えとしての研修や、そのストレスに対するメンタル面への研修なども取り入れていく。
日々の業務の中で、療育ルームなどを使い、こぐま学園のようなSVを受けるなどの研修も行っていく。

4. 「切れ目のない」地域支援サービスの拡充

- 7) ~~児童発達支援センターの整備(相談支援の併設)~~ ※実施済み
- 8) ~~のびろ利用定員の変更(現在50名→40名+短期併設10名)~~ ※実施済み
- 9) ひかりの「地域支援棟」の整備 ※平成30年度実施→※実施済み
- 10) グループホームの移設及び増設
グループホームは、老朽化していることもあり、新たな建物の建設ないし取得(賃貸を含む)する。また今後、ひかりの学園の日中利用者及びうぐいす園利用者のニーズに合わせて、日中支援サービス型を含む新たなグループホームの設置も視野に入れていく。
- 11) ~~袖ヶ浦市福祉作業所の受託~~ ※実施済み
- 12) ~~たのしみ中高生の放課後デイ実施~~ ※実施済み
- 13) ~~袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新~~ ※実施済み
- 14) 児童発達支援センターの機能拡充
増加する発達障害への早期療育ニーズに対応して、従来の児童発達支援機能(通所療育)に加え、インテークやアセスメント、アウトリーチを含む専門的相談機能及び機関連携やコンサルタント、施設支援指導事業などの地域支援機能を整備する。具体的には、専門的相談や地域支援を行い得る社会福祉士や言語聴覚士、作業療法士、公認心理師といった専門職を配置する
そのために、平成34年のたのしみ20周年を機に、袖ヶ浦市からの「袖ヶ浦市療育支援事業」を含めた事業委託もしくは運営費助成による「公立化」を目指す。
- 15) 地域生活支援センターたのしみの再編成 ※継続中
平成31年度のひかりの地域支援棟竣工に伴い、従来の「地域生活支援センターたのしみ」から相談支援事業所を分離し、単独の事業所として地域支援棟内の専用室に移設し運

営を行う。また「地域連携室」を発足し、将来的な展望として、地域生活支援拠点を整備する際の核となることを目指す。

残る障害児通所事業のヒツジとリス・ウサギについては、両者を合わせて「児童発達支援センターよろこび（仮称）」と呼称する。

16) 地域生活支援拠点の整備

「地域生活支援センターたのしみ」内の「地域連携室」を核に、地域生活支援拠点事業として、国の求める次の5つの機能について、地域の実情に応じた整備を行う。

- ① 相談
- ② 緊急時の受け入れ・対応
- ③ 体験の機会・場
- ④ 専門的人材の確保・養成
- ⑤ 地域の体制づくり

17) ひかりの学園短期入所の定員拡充 ※実施済み

18) のびろ学園短期入所棟の整備

ひかりの学園短期入所枠の拡大に伴い、のびろ学園短期入所利用者の属性を原則として児童に絞っていく。それによって、知的に軽度な発達障害児等を含めた多様な短期入所ニーズへ柔軟に対応すべく、小舎の専用棟を整備する。

[年次行動計画一覧]

年次	行 動 計 画	備考
平成25年度	● 「はやて棟」の用途変更	
平成26年度	● のびろ大規模修繕 ③ のびろ支援員の研修	←単年度ではなく継続 ←単年度ではなく継続 ※ひかりの30周年事業
平成27年度	⑥ ひかりの支援員の研修 ⑦ 「児童発達支援センター」の整備 ⑪ 袖ヶ浦市福祉作業所の受託	
平成28年度		
平成29年度	⑧ のびろ利用定員の変更 ⑫ たのしみ中高生の放課後デイ実施	※のびろ生活介護廃止 ※法人50周年事業
平成30年度	● ひかりの本体（そだて）改修、増築 ⑨ ひかりの「地域支援棟」の整備	※のびろ40周年事業 →保留
平成31年度	● ひかりの利用者グループ再編 ⑭ ひかりの学園短期入所の定員拡充 ⑮ 地域生活支援センターたのしみの再編成	
平成32年度	⑬ 袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理更新 ⑯ 地域生活支援拠点の整備	
平成33年度	⑩ グループホームの移設または増設	
平成34年度	⑭ 児童発達支援センターの機能拡充	※たのしみ20周年事業
平成35年度	⑱ のびろ学園短期入所棟の整備	

2020年度 年間行事等実施状況

項目 月	行 事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		そ の 他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月					8	連会議	30	のびろ避難訓練	15	労働衛生委員会		
					9	環境整備打合せ						
					14	研修係打合せ						
					16	研修係打合せ						
					21	医務打合せ						
					30	研修係打合せ						
5月			31	新人研修	7	連会議	28	のびろ避難訓練	14	労働衛生委員会	8	サービス向上委員会
					13	研修係打合せ					14	事故防止委員会
					14	環境整備打合せ						
						栄養マネジメント会議						
					15	厨房会議						
					26	研修係打合せ						
						医務打合せ						
6月					4	連会議	25	のびろ避難訓練	17	労働衛生委員会	26	サービス向上委員会
					9	研修係打合せ						
					11	環境整備打合せ						
					19	厨房会議						
					23	医務打合せ						
7月			17	プール講習会	7	チューター会議	30	のびろ避難訓練	7	労働衛生委員会	2	内部統制委員会
					9	連会議			16	人権擁護委員会	29	サービス向上委員会
						環境整備打合せ						
					21	研修係打合せ						
					28	医務打合せ						
8月	6	夏祭り			6	連会議	28	総合避難訓練	12	労働衛生委員会	27	事故防止委員会
	17	GH外出			13	環境整備打合せ						
	22	たのしみ夕涼み会			14	厨房会議						
					18	研修係打合せ						
						医務打合せ						
9月			20	全体研修	3	連会議	24	のびろ避難訓練	3	生活習慣病予防健診 (3~4、8)	2	セミナー企画委員会
					8	研修係打合せ					3	苦情解決委員会
					10	環境整備打合せ			9	労働衛生委員会	15	サービス向上委員会
					18	研修係打合せ			25	一般健康診断	17	サービス評価委員会
					25	厨房会議					23	事故防止委員会
					29	医務打合せ					29	苦情解決委員会

	行 事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		そ の 他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
10月	16	うぐいす園運動会			1	連会議	29	のびろ避難訓練	21	労働衛生委員会	14	情報セキュリティ委員会
					6	チューター会議					28	セミナー企画運営委員会
					8	環境整備打合せ						
					16	厨房会議						
11月	17	のびろZOMM保護者面談 (17~20)			6	連会議	26	のびろ避難訓練	25	労働衛生委員会	19	サービス向上委員会
	20	うぐいす園バスハイク たのしみ遠足			10	研修係打合せ						
					13	医務打合せ						
					13	厨房会議						
12月	22	GH忘年会			1	栄養マネジメント会議	17	のびろ避難訓練	9	労働衛生委員会	10	キャリアパス委員会
	25	クリスマス会			3	連会議					24	事故防止委員会
					10	環境整備打合せ						
					11	厨房会議						
1月	21	ひかりの学園新年会			7	連会議	21	たのしみ避難訓練	6	人権擁護委員会	28	キャリアパス委員会
					12	研修係打合せ	28	のびろ避難訓練	19	労働衛生委員会		
					14	環境整備打合せ						
					15	厨房会議						
					29	厨房会議						
2月					4	連会議	18	たのしみ避難訓練	3	夜勤者対象健康診断	10	キャリアパス委員会
					11	環境整備打合せ	25	のびろ避難訓練	25	労働衛生委員会	25	事故防止委員会
					12	厨房会議						
					16	連会議						
						研修係打合せ						
						医務打合せ						
					25	栄養マネジメント会議						
					26	栄養マネジメント会議						
3月	20	たのしみ単立ちを祝う会	13	新人研修	2	チューター会議	10	総合避難訓練	16	労働衛生委員会	11	事故防止委員会
	31	ひかりの父母会		全体研修	4	連会議						
					23	研修係打合せ						

事業拠点組織図(嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦])

